

外国人観光客の最近の動向について

街中を歩いていると、この数年で外国人が急激に増えたことを実感します。繁華街や観光地が外国人観光客であふれている光景は、もはやありふれた日常となりました。中国人観光客による「爆買い」がニュースで話題になったのも、記憶に新しいところです。今や日本の景気を支えているとって過言ではない外国人観光客の最近の動向について、今回の CBCA NEWS で取り上げます。

日本を訪れる外国人の数は、2017年の年間で2,869万人に達しました。4年前の2.8倍です。

牽引するのはアジア圏の観光客です。アジア圏合計で訪日外客数全体の86%を占めます。

特に伸びの著しいのが中国人です。2017年の人数736万人は、4年前の5.6倍、全体の26%を占めます。中国に台湾と香港を加えた中華圏では全体の約半分を占め

ます。繁華街や観光地で中国人の姿がやたら目立つのも当然です。

世界各国と比べても、日本は特に外国人観光客の増加率が高いと言われています。日本が、経済発展著しい中国から地理的に近いことは、その大きな要因のひとつと言えるでしょう。

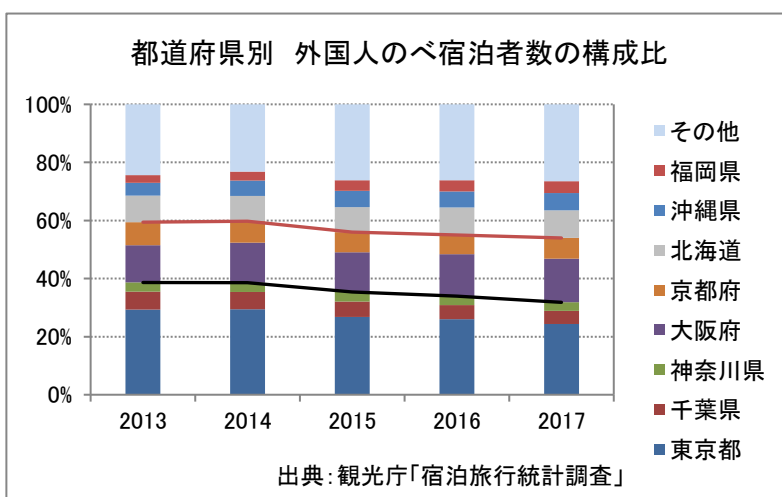
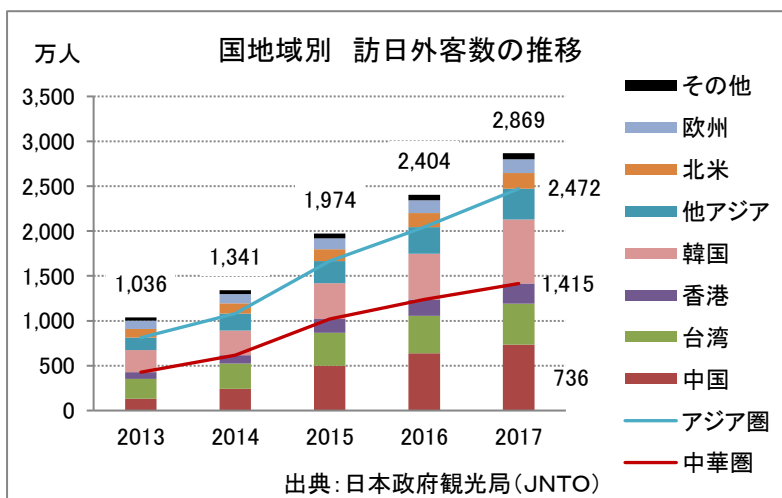
次に、外国人が日本のどの地域を訪れるのかを、都道府県別の宿泊者数の構成比で確認しましょう。

やはり、最も多いのは東京圏です。東京に千葉と神奈川を加えると、2017年では全体の32%を占めます。ただし、2013年では39%を占めていました。東京圏のシェアは年々低下傾向にあることが分かります。

大阪と京都を合わせた関西圏は、

2017年では22%を占めます。2013年では21%なので、ほぼ横ばいです。日本が誇る観光地である京都の人気は根強く、しっかりとリピーターを確保しているようです。

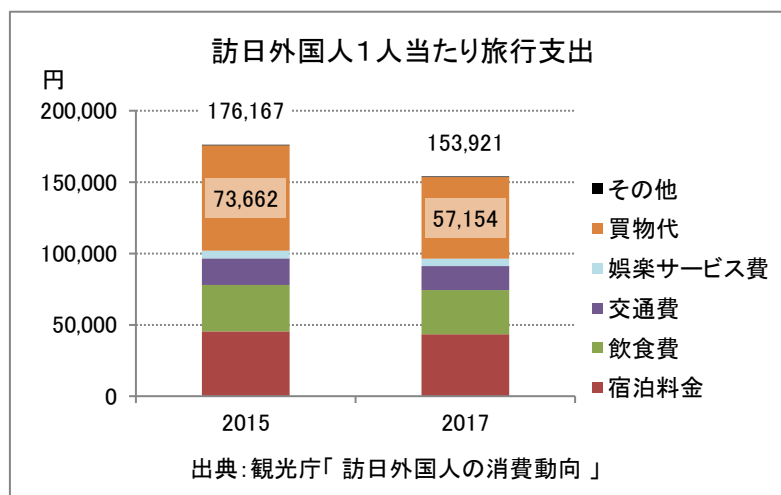
一方、北海道や沖縄といったリゾート地を訪れる外国人が伸びています。また、定番のエリア以外のその他の地域を訪れる外国人が増えています。複数回日本を訪れる外国人が増えたことで、東京エリア中心の観光から、より広範囲をターゲットにする観光へと変化していることが伺えます。



今度は、訪日外国人が使う金額に注目してみましょう。

訪日外国人1人当たりの日本国内で支出した金額を、直近の2017年と、「爆買い」がニュースとなった2015年とで比較します。

2015年は1人当たり17万6千円を支出していましたが、2017年には15万3千円の支出に留まっています。宿泊や飲食などに支払う額が殆ど変わらないのに対し、買物に支払う額が大きく減っていることが分かります。「爆買い」が一服したと言われる所以です。



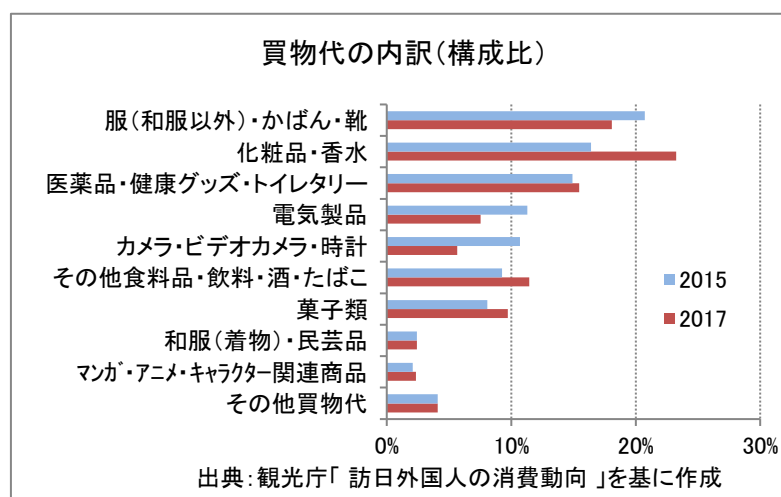
では、買物の中身はどう変わっているのでしょうか。買物代の内訳(構成比)を、同じく2015年と2017年で比較します。

大きく比率を下けているのは、電気製品やカメラなどの耐久消費財です。これらは「爆買い」の象徴としてよく挙げられていたものです。買いたい人が一巡したと素直に考えられるでしょう。

一方、比率を上げている筆頭は、化粧品類です。食品や菓子類なども堅調です。これら消耗・嗜好品が堅調なのは、品物を気に入り、訪日の際に再度購入するリピーターが数多く存在することを示しています。

ちなみに、着物類やアニメグッズなど、いわゆるクールジャパン商品への支出はさほど多くありません。

こうしてみると、訪日外国人の増加は、日本が初めての外国人が中心の初期段階を過ぎ、日本に詳しくなった賢い外国人リピーターが中心の第2ステージに移行していると考えられます。「日本にまた行きたいな」と感じさせる魅力と懐の深さがあるかどうか、日本の観光業が今後伸びていけるかどうかのカギとなります。その点、再開発で大型商業施設ばかり増やしている東京圏の人氣が鈍化していることは、今後の着目点として心に留めておく必要があるでしょう。



一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先